

34 ヒナタムシヤドリカワザンショウ (カワザンショウガイ科) 兵庫県ランク:B

Assiminea sp.

環境省ランク:NT

種の概要

東北から四国・九州、瀬戸内海にかけてのヨシの生える河口汽水水域に広く分布する。ヨシ群落内の砂泥上や漂着物、枯死した茎のかたまりの下に多く、ヨシの茎に這い登っていることもある。殻長5mm程度、縫合のくびれは前種よりも弱く直線的である。殻色は黄褐色から赤みのある茶褐色で、縫合下と臍域はクリーム色となる。若い個体は光沢があるが、老成個体は全面が白く浸食される。本種はこれまでムシヤドリカワザンショウ(貝類Aランク)とされてきたが、諸形態や分子系統解析の結果、ムシヤドリカワザンショウとは別種とされ、新称された(福田,2012)。

主要な選定理由

| 人為性 | | | 生息環境の特殊性 | | 学術性 | | |
|-------|--------|--------|----------|-------|-------|-------|----|
| 個体数激減 | 分布域に影響 | 営利目的捕獲 | 特殊生息環境 | 地域的孤立 | 分布が極限 | 分布の限界 | 希少 |
| | | | ○ | △ | | | ○ |

県内分布

加古川市、高砂市、姫路市、相生市、たつの市、赤穂市

県内における生息状況及びその他特記事項

CからBに変更。県内では、瀬戸内海流入河川の加古川以西の河口汽水水域の干潟に比較的普通に生息している。淡路島の南西部においても生息可能な場所はあるが未確認である。干潟のヨシ帯周辺のやや高潮に生息しており、ヨシ帯のない場所で確認できないことから、ヨシ群落に対する依存性が高い種と考えられる。

保護上の留意点

本種の生息には、ヨシの存在がかなり重要、不可欠と推察されることから、他の干潟生物の流水域の存続も踏まえて、低潮位から高潮帯にかけて、そして流程においても広範囲のヨシ帯の維持を図る。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修